

令和元年度

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

会津域内優秀作品集

伝えたい 思い届ける 十七字



福島県教育委員会（会津教育事務所）

作品集の発行によせて

平成十四年度に始まった「十七字のふれあい」は、家族や友だちと、日常生活での共通体験を綴った十七字「絆部門」と、震災体験やそれを乗り越えてきた気持ちを綴った「復興部門」、今年度から始まった、「ふくしまへの応援に関する十七字」「ふくしま応援部門」(福島県外在住者)の三部門からなり、「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」として実施しております。開始から十八年目を迎えた今年度は、参加者が過去最多の四五七七組となり、広く県民の皆様に親しまれ、ご参加いただける事業となりました。

会津域内におきましても、児童生徒数が減少する中、昨年度より一一八組も多い、総数五九四六組の御応募をいただき感謝申し上げます。家族や友だち、地域の方々とのあたたかい心の絆を感じさせる作品や、ほほえましい日常の一コマを切り取った作品など、心に響く力作揃いでした。県全体の審査においては、最終選考に会津域内から十一組の作品が残り、絆部門では優秀賞一組、佳作二組、復興部門では優秀賞一組が選出されました。御協力いただきました市町村教育委員会、幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、特別支援学校、公・私立高等学校、そして審査をしていただきました公立小・中学校退職校長会の皆様、大変ありがとうございました。

このたび会津教育事務所では、県入賞を含め第一次審査選考作品となりました三〇七組について、作品集にまとめました。本作品集が、家庭や地域において、心のふれあいや絆づくりのきっかけとなることを願っております。

令和二年一月

福島県教育庁会津教育事務所長 近藤 静雄

《目次》

県入賞作品(優秀賞・佳作)	1
会津教育事務所長表彰	
○奨励賞(二次審査選考作品)	2
○学校賞・全校参加賞	2
○絆ふれあい賞(一次審査選考作品)	
〈絆部門〉	
・幼稚園	3
・小学校	3
○応募いただいた方々からの御感想・御意見	17
・高等学校	17
・中学校	16
・小学校	15
・幼稚園	14
〈復興部門〉	
・高等学校	14
・中学校	11



県入賞作品



絆部門・優秀賞

(県内五組：うち域内一組)

じいちゃんは ぼくの先生 もの知り名人

喜多方市立関柴小学校 三年 渡部 樹

「ぼくは、じいちゃんと山に行くのが大好きです。なんでもしっていて、かっこいいです。」

孫を連れ 冒険始まる 日曜日

祖父 渡部 義夫

「好奇心旺盛な孫が休日前に「山に行きたい」と話す姿を見て考えました。虫とりや木工造りを一緒に楽しむ時間を大切にしようという想いを込めました。」

復興部門・優秀賞

(県内五組：うち域内一組)

キックオフ Jヴィレッジ 再始動

猪苗代町立吾妻小学校 四年 小野寺 悠

「サッカーの大会で、初めてJヴィレッジで試合が出来た時に思ったことを書きました。」

待ちわびた 我が子が駆ける 初ピッチ

母 小野寺 淳

「Jヴィレッジが全面再開し、我が子にとって初めてのJヴィレッジでの大会で、より復興を感じる事ができました。」

絆部門・佳作

(県内十組：うち域内二組)

寝る前に 祖母に毎晩 読み聞かせ

会津美里町立高田中学校 二年 猪巻かの子

「夜、就寝前に私がいつも祖母に本を読み聞かせをしているので、作ろうと思いました。」

夏の夜に アウシュウイツツに 感動す

祖母 猪巻 律子

「小学校高学年の頃から、私は目が悪いから本は読みたくないと言うと、それから孫が読んでやると言い、滑舌よく、間の取り方も上手と褒めたら、毎晩読み聞かせてくれます。」

顔合わせ ニッコッと微笑む 祖父が好き

会津美里町立新鶴中学校 一年 小原 夢菜

「祖父はいつも焼酎を飲みます。祖父はいつも私ができるのと知っておきながら「焼酎作れる?」と聞きます。私はそう聞かれると祖父の目を見つめます。その時に祖父が浮かべる笑顔が私は大好きです。」

孫が好き 「おかわりごっこ」で 酒がすすむ

祖父 小原 重次

「孫が焼酎割りを作ってくれるとうまさも倍増で、幸せのひとつが良いですね。」



絆ふれあい賞・絆部門 【幼稚園】

「パパどっち？」つきはハンドル みぎ？ひだり？
 子供達 何が楽しい？ どこがいい？
 かたぐるま おおきくなつたよ おもいでしょ
 大丈夫 まだまだいけるよ 二、三年
 つくったよ 母と一緒に 笹舟を
 笹舟に 子つむ花びら 入れ流す
 おぼんには みんなでだんご まるめたよ
 星団子 ごめんね丸く なおします
 トントトン わたしが、パパの おいしやさん
 かたたたき 小さなおてて やさしいな
 もういいよ ぼくはかくれる てんさいだ
 見えてるよ 探すふりして もういいかい

絆ふれあい賞・絆部門 【小学校】

かちたいと はじめておもった 夏休み
 頑張れと 握るおにぎり 固くなり
 おかあさん おこっけても はなしたい
 朝の大声 会社に着いて 反省し
 なめくじで ざりがにつれたよ すげーすげー
 孫の手に そつと手を添え コツ伝授



坂下南幼年長	父	永山 大耀	ばびょういん はやくいっしょに あそびたい 病室で 子どものあそび場 検索する	城北小	一年	平田 陽生
坂下東幼年長	父	永山 秀春	おかえりの だっこはぼくが 一ばんね 抱き上げた 我が子の重さ かみしめる	城北小	二年	渡部 風依
新鶴こども園 年長	母	大堀 莉菜	宿題中 こくりこくりと する我が子 「ねむくない！」 赤べこのまね してるだけ	城北小	三年	渡部 愛梨
会津慈光 年長	母	坂詰 日和	けんかする いつも最後は パパのギュー ごめんねと 素直に言えず 抱きしめる	城北小	四年	大竹 瑛仁
会津若葉 年長	父	あおやぎ もえぎ	おいしいね つくり笑顔で がまんする 知ってるよ 嫌いな野菜 にかわらい	城北小	五年	宇南山 新太
みなみ若葉 年長	母	高野 煌大	手をつなぐ じいじの歩く お手伝い 小さい手 とっても強く にぎってる	城北小	五年	宇南山 絵美
高野 江美子	母	高野 江美子	お父さん とっておいたよ メンチカツ うれしいな でももったいなくて 食べられない	城北小	祖父	松木 夢珠
鶴城小 三年	母	阿部 竜己	いつまでも 小さくないよ お父さん 無意識に 差し出す手のひら ひっこめる	城北小	六年	五十嵐 幸夫
城北小 一年	母	菊地 晶子	つかまって ぎっくりこしの 母支え ガツシリと 頼れる子の腕に 支えられ	城北小	六年	中嶋 紗和
城北小 一年	母	室井 煌大	ぼくやるよ カートを押して お手伝い いつもより 予算オーバー 菓子の山	城北小	六年	中嶋 英樹
城北小 一年	祖父	室井 弘次	一週間 はなれて想う 祖母の味 老いてなお 役目の有りて 米を研ぐ	城北小	祖母	内山 真菜人

待ってたよ 新品スバイク ありがとう	城北小 六年	猪股 航	ミニトマト たくさんなって うれしいな	謹教小 二年	木じま 大し
日焼けした 笑顔にガンバレ 送る夏	母	猪股 亜紀子	誇らしげ 収穫語る 子の笑顔	父	木島 寛
おとうさん このみちちがうよ そこひだり	行仁小 一年	加藤 琴梨	ボーリング また教えてね おじいちゃん	謹教小 二年	小椋 梨愛
いつからか 娘の声が ナビゲーター	父	加藤 高弘	孫たちよ まだまだ負けん ボーリング	祖父	小椋 良寿
かたこりの 母へわたしが マッサージ	行仁小 四年	渡邊 ののか	孫の声 ひびく夏の夜 にぎやかに	祖父	鈴木 富夫
優しさに ツボが違えど 効いてくる	母	渡邊 由美子	いつまでも 元気でいてね また来るよ	謹教小 二年	鈴木 愛琉
あこがれの 父のボールに 手がいたみ	行仁小 四年	福 彗 清良	お母さん 家ぞくのために ありがとう	謹教小 二年	串淵 未来
夢に見た 息子が返す ミット音	父	福 彗 清光	ありがとう その言葉だけで 救われる	母	串淵 実由貴
目玉焼き 心をこめて 作ったよ	行仁小 四年	高橋 希	ばあちゃんの やさい畑は 宝ばこ	謹教小 三年	青山 倖大
病にて 倒れて気づく 子の心	母	高橋 幸枝	おいしいと ほおばる孫の 焼けた顔	祖母	青山 慶子
おとうさん 見えないけれど そばにいる	行仁小 五年	佐竹 舞乃	初キヤプテン いつものごはんが 飲みこめぬ	謹教小 四年	丹保 遼太郎
迷った時 空を見上げて 問いかける	母	佐竹 麻衣	子の試合 支える母も ガチガチだ	母	丹保 智草
これなあに いねの花よと お母さん	城西小 二年	かんの あき	じいちゃんと 畑にいつて 収かく祭	謹教小 五年	菊地 新大
さんぽ道 しゃがんだそばに 稲の花	母	菅野 久美	底無しの 孫の胃袋 たくましい	祖母	斎藤 徳子
おいしいな 夏のカレーは 最高だ	城西小 四年	木村 拓道	夏空に 勝利をちかい ハイタッチ	謹教小 六年	近藤 亘
食へてるぞ 気づかないうち 夏野菜	母	木村 理香	ハイタッチ 胸の鼓動が 手の平に	父	近藤 敦
母助け 二人で作る お夕飯	城西小 五年	伊関 美有	汗流す 母に向ける せん風き	謹教小 六年	五十島 寿愛
助けられ 嬉しさほおぼる お夕飯	母	伊関 恵美子	まつてね 汗かき作る 大好物	母	五十島 美奈
はやわざで せみつかまえる おかあさん	謹教小 一年	佐々木 星花	ままため ちゃんあらいの おてつだい	日新小 一年	いがらし ちさき
まかせてね 今も現役 虫とり名人	母	佐々木 文枝	意外にも きちんと出来る 娘かな	母	五十嵐 祐子
たたむとき 母とおしゃべり 楽しいな	謹教小 二年	よこ山 さゆな	夏休み 早くみになれ ミニトマト	日新小 二年	山口 めあ
Ｔシャツの ヨレさえ愛し そのままに	母	横山 由佳野	枯れぬ様 陰で水やり 母手入れ	母	山口 由加利

お手つだい ママにお休み あげたいな	日新小 三年	野原 莉央	ごめんねと すなおになれず ふてねする	一箕小 六年	山中 大夢
ありがとう おかげで少しの 休み時間	母	野原 紫織	腹立つも そと見守る 反抗期	母	山中 真由美
かわいいね お下がりほめられ 上きげん	日新小 三年	菊池 樹那	お母さん いつもお世話を ありがとう	一箕小 六年	佐藤 慶汰
姉二人 三女の我慢 胸を打つ	母	菊池 美枝子	肩をもむ 息子の手のひら 温かい	母	佐藤 奈保
そう作聞く かたごし兄の 声やさし	日新小 五年	仮名 翔	ねえみてよ ぼくのこのかお おもしろい？	松長小 一年	梅津 恒雅
教えたよ 笑顔が君の 倍返し	会津工業高三年(兄)	仮名 譲	見ていたい 私によく似た この笑顔	母	梅津 真美
ははやきん あさがくるのが まちどおしい	湊小 一年	瀧田 光	ひるねする 母のせなかは ぼくの物	松長小 四年	小林 勝
休憩中 思い浮かべる 子の寝顔	母	瀧田 加奈江	姉きせい 好物作る 母うれし	母	小林 まゆみ
お母さん 私やるから 休んでて	湊小 四年	大関 玲那	墓まいり 両手を合わせ また来年	松長小 六年	穴澤 巧成
夜勤前 娘に甘えて ひと休み	母	大関 裕美	迎え火に 孫もきたかや 亡母の声 ^は	祖父	佐藤 勝広
夏休み 冷蔵庫は 孫のもの	祖母	木村 カヨ子	ビール腹 父さんプールに さそう夏	永和小 五年	小貫 陽
ばあちゃんち おみせみたいな れいぞうこ	一箕小 一年	みやぶ ちりり	仕方ない 可愛い息子の 頼み事	父	小貫 崇
じいちゃんはいつもえがおで まってるよ	一箕小 一年	こまつ まなと	初大会 ふるえる声で 竹刀ふる	永和小 五年	江川 凜音
孫帰る 部屋の暗さが 身に染みる	祖父	小松 誠	声も出ず 手に汗にぎる 応援団	母	江川 律子
おかあさん きょうもねるとき ほんよんで	一箕小 一年	渡辺 一真	サッカーで 走る息子に 「がんばれ」と	母	石橋 知子
うん。いいよ。 でも先寝ても ゆるしてね。	母	渡辺 千映	母の声 かんとかよりも ひびいてる	永和小 六年	石橋 快斗
いつもはね 言えない一言 ありがとう	一箕小 四年	松井 風華	ママのうで ずっとぼくの まくらだよ	神指小 二年	松川 経
知ってるよ 声に出せない ありがとう	母	松井 恵美	眠れない あなたがここに 居ないとね	母	松川 節子
家族のね 絆深める お手伝い	一箕小 四年	佐藤 徹平	ママのため まいにちやるよ おてつだい	神指小 二年	さなだ ゆきな
ありがとう 言われた息子の 自慢顔	母	佐藤 奈保	ありがとう ママの心を わしづかみ	母	真田 美穂
お母さん こんなに私 育ったよ	一箕小 五年	佐藤 桃香	ばあばあ 足のかわりは ぼくの足	神指小 三年	松川 叶芽
あわてずに ゆっくり成長 していいよ	母	佐藤 博美	あれとって 「はい」孫の返事に 笑みこぼれ	祖母	松川 泰子

これママに すきだとおもって かってきた	門田小 一年	渡邊結菜	妹がぼくに言うのは「おんぶして」	東山小 三年	川俣幹裕
その優しさが 頭痛薬より いい薬	母	渡邊純子	妹と遊ぶ背中が 頼もしい	父	川俣裕樹
がんばるよ なわとびそ母と 百回ね	門田小 三年	大堀みお	僕行けば ほんとに治るの おばあちゃん	東山小 五年	二瓶乃愛
腰痛も 背すじのばして やせがまん	祖母	松村清子	効くんだよ 点滴よりも 孫の顔	曾祖母	山口 ミヨ子
ママのかみ さわつてねると きもちいい	城南小 一年	鹿目来々	だがし屋で お金が足りない どうしよう	東山小 六年	山田心羽音
あなたの手 私も同じ きもちいい	母	鹿目芳恵	弟が こっそり自分の かしもどす	東山小 四年(弟)	山田 閔天
「いってらっしゃい」 休みはわたしが 見おくるよ	城南小 三年	小川結羽	つぶやくの ママのまくらを にぎりしめ	小金井小 一年	おおたけひな
「おかえり！」と 仕事のつかれも いやされる	父	小川 碧	時計見る 明日会おうと つぶやいて	母	大竹静枝
弟の となりにいると 二度ねする	城南小 四年	児玉 蒼	なつのあさ せみのこえで めがさめる	小金井小 一年	長峰愛花
寝姿が なせだか同じ ほほえまし	母	児玉浩美	せみよりも うるさい声で 起こす母	母	長峰かおり
ばたあしで ママのとこまで いちちよくせん	大戸小 一年	松尾風花	ねこの手で しっかりおさえ やさいきる	小金井小 二年	佐々木 柚
ここまでね！ 急ぐ我が子を 抱きしめる	母	松尾由美	ハラハラと 見つめる我が子の 成長を	母	佐々木 綾香
たまにはね 二人の時間 女子トーク	母	小林沙友里	お母さん おつかれの指 かしてみて	小金井小 四年	岩淵翔太
おいしいね パフェもママも ひとりじめ	大戸小 三年	小林愛絆	マッサージ 手はスッキリ 心ほっこり	母	岩淵美穂
足いたい ぼくすぐつえを 持つてくる	大戸小 四年	白岩銀二	いもうとは すきにたたける ぼくのかお	荒館小 一年	なかまるあおい
幼な孫 おぶいし日々が なつかしい	祖母	白岩絹代	本当は 痛いのがまん ありがとう	母	中丸 佳奈子
兄弟で 絆のペダル こいでいく	大戸小 六年	宗像日向	あねのじゅく おにぎり作って 帰りまつ	荒館小 二年	坂内 心春
まだ行くぞ 弟連れて こぐペダル	会津学園高一年(兄)	宗像大洋	不器用な 大きなおにぎり 元氣出る	北会津中三年(姉)	坂内 美海
わたしやる なんでも一人で できるもん	東山小 二年	星 結優	ミニトマト いつものまにか 赤くなる	川南小 二年	若林友都
ママやるよ まだまだ早いよ 親離れ	母	星 江里子	こっそりと 水あげしたよ 寝てる間に	母	若林さとみ
ごみひろい みんなでやれば ぴかぴかだ	東山小 二年	鈴木亜来	らんどせる かったよぼくも つれてって	認定こども園子どもの森年長	おおたけあきひさ
夢街道 力を合わせて ゴミはなし	父	鈴木和之	弟と いっしょの登校 ドキドキだ	河東学園小六年(姉)	大竹 優綺

ぎおんさい おおきなこえで やりかけろ	磐一小 一年	よしだ さち	パパとする キャッチボール 楽しいな	吾妻小 一年	佐藤 悠梧
あの頃と この掛け声は 変わらない	母	吉田 亜希	子が投げる 球が日に日に 重くなる	父	佐藤 啓喜
ちちつくる プランコつて かぜにのる	磐一小 二年	わたなへりんか	おまつりに まちのみんなで いったきた	吾妻小 一年	古川 七彩
止まらない 手作りプランコ こぎまくる	母	渡部 絵里	お囃子と 文庫結びに 心は躍り	母	古川 志保
母も着た ゆかたといっしょに 夏祭り	磐一小 四年	加藤 彩葉	ばんごはん わたしがきった トマト見て	吾妻小 二年	大桃 望
夏祭り 浴衣せがむ子 我に似て	母	加藤 静香	包丁を 持つ手を重ね トマト切る	母	大桃 美紀
みずうみで れんしゅうしたよ「ういてまで」	磐二小 一年	穴澤 宗太郎	かたもみで 祖母のつかれを 感じとる	吾妻小 五年	鈴木 理心
みずうみに ういてながめる あおいそら	父	穴澤 佳一	まこの手で こりがやわらぐ 夏の夜	祖母	鈴木 せつ子
夏まつり 父のたいこで ぼんおどり	磐二小 三年	鈴木 佑菜	夏祭り くつきはなれて 歩く夜	吾妻小 五年	渡部 佳音
やぐらから 見おろす子らに 笑みこぼれ	父	鈴木 尊嗣	はしゃぐ背と 空いた右手の かき氷	母	渡部 美奈
おとしより みちあんないは まかせてね	磐二小 四年	永澤 龍星	夏休み 夕はん作り お手つだい	緑小 二年	佐藤 陽向
わが息子 今日も一日 ひと助け	母	永澤 静江	母の味 想い伝える 夏休み	母	佐藤 怜子
怖かった 湖の深さ 今は無き	翁島小 六年	渡部 ここみ	見上げてる 父さんの背を こしてやる	緑小 四年	須田 斗翔
肩に乗せ おびえた姿 今は無き	父	渡部 友宣	あと少し 見下ろす頭 日々近く	父	須田 忠洋
丸生地に 具をどっさりとのせていく	千里小 三年	吉田 真望	母ならば 首までどいた せいくらへ	長瀬小 三年	野口 大和
のせすぎの 具をそっとよけ ピザを焼く	母	吉田 里美	背が伸びて 近づく笑顔 はずむ声	母	野口 真季
子の背中 大きく見える 登山道	父	笠間 崇	母仕事 料理作り 待つわたし	長瀬小 四年	佐藤 愛結花
今年は何 人生初の 山登り	千里小 四年	笠間 彩結	やさしさに 片づけながら 涙する	母	佐藤 晴美
朝ごはん ぼくが作るよ お母さん	千里小 六年	吉田 昊生	おとうとと ながしそうめん たのしいな	喜一小 一年	いちかわりんか
隣立ち 包丁使いに 肝冷やす	母	吉田 里美	来年は いったい何把 茹でるやら	母	市川 快子
運動会 親子競走 父さんと	猪苗代小六年	一ノ瀬 恵人	けいこぎの おびおすぶ母 ありがとう	喜一小 一年	はらけいたろう
照れながら 手から感じる 子の成長	父	一ノ瀬 正人	頑張れと 思いを込めて 結ぶ帯	母	原 伊久美

おてつだい あわでゴシゴシ さらあらひ	喜一小 一年	横山 優空	子の成長 虚空蔵菩薩へ 感謝する	母	吉田 孝子
ありがとう あとでこっそり 二度洗い	母	横山 絵里子	願い込め 十三講詣りで 手を合わす	喜二小 六年	吉田 響
いもうとど おそろいのふく うれしいな	喜一小 一年	竹田 こまち	こちきて いっしょにあそぼ もう一かい	松山小 一年	埜渡 望乃子
夢かなう 娘二人に ペアルック	母	竹田 美子	いつくるか 巣立ちを思い 類寄せる	母	埜渡 さえ子
子の笑顔 見たくて探す カフトムシ	父	長谷川 広享	ふるそうじ きれいにできたよ お母さん	松山小 四年	猪俣 心 結
だれよりも よろこんでるよ お父さん	喜一小 二年	長谷川 まほ	ありがとう そつと確認 ふろの栓	母	猪俣 真紀子
ママのては あったかいから すきなのだ	喜一小 二年	北 淳人	勉強は 姉が先生 もう指どう	松山小 四年	高橋 華里菜
あと何年 手つなげるかな ふと思う	母	北 淳子	水泳は 弟先生 大逆転	三年(弟)	高橋 悠希
しんかんせん かえりはなみだで したをむく	喜一小 二年	藤 田 慈	ひぎにごろん しあげみがきを よろしくね	上三宮小 四年	渡部 茉柚
娘泣く その姿見て 景色滲む	母	藤 田 由佳	ひざまくら 見上げるまなざし 変わらぬ	母	渡部 美加
よみきかせ じつと聞いている あはれんぼう	喜一小 四年	佐々木 花楓	ママてよ! あさがおさいたよ ほら!みてよ!	関柴小 一年	五十嵐 柚月
きょうだいの 仲をとりもつ よみきかせ	母	佐々木 有里	ほんとだね あなたの笑顔も 咲いたわね	母	五十嵐 千春
ゴシゴシと 母のとなりで 血洗い	喜一小 五年	伊藤 寧々	ママのごはん 全部好きだよ 何でもいーよ	豊川小 六年	長原 成那
ありがたや わが家の 児童(自動)血洗い	母	伊藤 礼	何食べたい? お願いだから 一品言って	母	長原 聖子
前がみの くせげがママと いっしょだよ	喜一小 五年	中村 花梨	兄帰る こんどはいつ あえるかな	加納小 二年	原 心 愛
とんがって はねる前髪 祖母譲り	母	中村 妙子	妹よ すぐに会いに くるからね	兄	原 清 亜
きれいだね 母とながめる あかね空	喜一小 六年	皆川 心陽	夏まつり 去年の浴衣どう? 似合う?	堂島小 二年	佐藤 小夏
穏やかな 時間流れる 子と二人	母	皆川 共子	去年は 大きい浴衣 思い出す	父	佐藤 遼平
母のこえ え本でねむる ここちいい	喜二小 二年	くろさわ ひより	年がたち ばつちり二重も 親ゆずり	堂島小 四年	山口 莉那
ねむる前 少しの時間で つながる笑顔	母	黒澤 希子	ありがとう おこるくせも 親ゆずり	母	山口 奈美
歩こうと そ母をさそい テクテクと	喜二小 三年	遠藤 晴翔	なつのやま アサギマダラに なまえかく	塩川小 一年	つちや ゆずき
思いやり 歩幅合わせる 孫の成長	祖母	遠藤 美佐子	チョウはなし 孫と見上げる 夏の空	祖母	土屋 とき子

クローラが はじめて出来たよ うれしいな	塩川小 四年	猪俣百華	ミニトマト いっぱいとれて うれしいな	西会津小二年	安部静那
泳げたね 焼けた背中に 努力賞	母	猪俣明香	赤い玉 そと摘み取る かわいい手	祖母	安部典子
お母さん 重い荷物も もてますよ	塩川小 四年	坂井菜々花	りゅうせいに なが生きしてねと ママ思う	西会津小二年	佐藤謙真
気がつけば いつも頼りに してました	母	坂井智子	夏の夜 成長願ひ 星見上げ	母	佐藤千春
ぼくげんき あさからごはん 二はいめだ	姥堂小 一年	ふなだろのあ	父作る ぼくもだすき コシヒカリ	西会津小四年	長谷川 瑛飛
よくたべて おなかがまるで すいかだよ	母	船田綾子	子のために 汗水流す 米作り	父	長谷川 福和
どっかーん！ パチパチキラキラ ほしのよう	姥堂小 一年	高畑 一花	ばあちゃんに 教えてもらった 米の花	西会津小四年	矢部 乃衣
夏の夜 小さな瞳に 映る花	母	高畑 ほのか	孫を連れ 楽しく歩く 田んぼ道	祖母	長谷川 啓子
いそがしい 母にかわって おせんたく	姥堂小 二年	新國 愛実	夏まつり 母の浴衣で オシャレして	西会津小五年	五十嵐 美空
まっ白に 母の心も あらわれた	母	新國 芙美子	盆踊り 浴衣の娘に 面影を	母	五十嵐 恵美
おぼえたよ じょうずに言えた 九九の段	駒形小 二年	初山 未来	ホームステイ はなれてわかる 家族愛	西会津小六年	渡部 晃大
私のうしろ 聞いて聞いてと 九九の段	母	初山 和子	ただいまと 見せた笑顔が たくましい	母	渡部 智美
スニーカー 母のをかりて 外遊び	駒形小 五年	大堀 遙斗	だいじょうぶ ぼくがてつだい してあげる	坂下南小一年	大塚 蒼介
気がつけば 小五の息子と くつ共有	母	大堀 克江	ありがとう 子のたくましさ 身に染みる	母	大塚 理絵
ともだちと きゅうりのまつり たのしいな	高郷小 一年	小林 美緒	お手つだい いっぱいしたい お母さん	坂下南小三年	鈴木 美希
年齢 <small>とし</small> 問わず 笑顔が集う 地区まつり	母	小林 雅子	ありがとう 見守りながら 時計見る	母	鈴木 千春
ママ見てて ぼくも本気で 工作だ	さくら小 四年	石井 亮汰	海に行き 兄のスポンが ぬれ笑う	坂下東小六年	讃岐 董礼
見て見ると せがまれ見たのは 超大作	母	石井 里美	波さえも 笑顔のための 小道具よ	兄	讃岐 周一郎
大成功 庭のスイカが 豊作だ	さくら小 六年	渡部 美優	ただいまと 帰った家から いいにおい	笹川小 三年	柏木 ゆうと
子の知らぬ 所で手間かけ スイカなる	母	渡部 愛	ただいまと 肉食怪獣 おかえりだ	母	柏木 理智子
つらくても 仲間がいるから がんばれる	裏磐梯小 五年	佐藤 大和	ねえ聞いて 毎日笑顔で ほうこく会	笹川小 四年	関本 海音
頑張った 証が見える ユニフォーム	母	佐藤 美由貴	聞いているよ 私も笑顔 疲れ飛ぶ	母	関本 美穂

もう一ど さいしよにもどれ なつ休み
 振り返る 楽しい思い出 一行日記
 聞こえたよ 母の声えん ラストスパート
 水しぶき 息子の姿を 焼きつける
 冷たいな 暑い夏の日 川遊び
 キラキラと 広がる浅瀬 子の笑顔
 海遊び 走って波越え びっしょびしょ
 我忘れ 子らとはしゃいで 波かぶり
 元気がよ 声かけあつて 助け合い
 ああいいな 心にしみる 会津弁
 さあ行くぞ 魚と出会える 海水浴
 図かん持ち 魚調べる ぼくはかせ
 流星ぐん 空をにらんで じっと待つ
 もう少し 空にとどまれ 流れ星
 ばあちゃんの つくったやさい おいしいよ
 うれしいな そだてたこほうび その笑顔
 だんさだよ わたしがママの 目になるね
 たのもしい 親の手をひく 細いうで
 おふろつて ママと入ると とくべつだ
 楽しそう ついつい長ぶる のぼせそう
 手伝うよ にんじんたっぷり 夜ごはん
 これを機に あなたも好きに なつてよね

勝常小	二年	わたなべゆな	夏の夜 父母と見つける 三角形	新鶴小	六年	山内心結
母	渡部 由香里	この瞬間が ずっと続けと 願う夜	母	山内美奈		
柳津小	六年	白井広弥	夕やみに ちようちんゆらゆら 虫送り	三島小	三年	二瓶伸悟
母	白井千代	次世代へ つなげと願う 虫送り	母	二瓶和枝		
高田小	五年	宮下 カ	山登り つかったけど 登りきる	三島小	五年	森 玲奈
父	宮下 徹	磐梯山 先行く我が娘 たくましく	父	森 建介		
宮川小	四年	齋藤 優翔	週末に 家族そろつて タご飯	三島小	六年	小松紗佳
母	齋藤 奈津子	団らんが 一番おいしい おかずだね	父	小松 昭		
宮川小	六年	岩野 史	パパといく 五キロのさんぽ ぼうけんだ	金山小	一年	目黒結詩
母	岩野 仁美	いつもより 会話も弾む 田舎道	父	目黒賢治		
父	木野 光洋	畑には 赤い宝石 実つてる	金山小	六年	高橋千優	
本郷小	三年	木野 和輝	ラジオつけ 熊から守る 赤かぼちゃ	母	高橋富枝	
本郷小	四年	梅宮 泰希	トマトとり おしくいなしが うれしいな	横田小	五年	武満琴未
母	梅宮 朋葉	虫だつて 縁の下の カ持ち	母	武満みえ		
新鶴小	一年	荒家 悠雅	オニヤンマ あみもたずに おいかけて	昭和小	二年	青木 昶希
祖母	梶内 裕美子	あみもつて 息子追いかけ 秋夕焼	父	青木 秀之		
新鶴小	三年	長峯 心陽	りよう理して ほめてもらえて うれしいな	昭和小	三年	工 遊理
母	長峯 まゆみ	オムレツに チーズもはいつて 五つ星	母	工 彩		
新鶴小	四年	鈴木 杏奈	息合わせ その調子だよ オールこぐ	昭和小	三年	長谷川 美桜
母	鈴木 千枝	リードする 後ろ姿に 水しぶき	母	長谷川 規予美		
新鶴小	六年	二瓶 友綺	はしならべ せんたくほしは まかせとけ	母	さいとう 光	
母	二瓶 園美	将来の「カジダン」目指し 日々修行	母	齋藤 絵美		

絆ふれあい賞・絆部門【中学校】



ありがとう 部活のたびに お弁当
返された 空の弁当 疲れとぶ
恒例の いとことみんなで 背くらべ
陽に焼けた 手足もすらりと 良く伸びて
盆の朝 笑顔集いて 墓参り
中学生 なったと報告 としよばあに
立ったまま 母の白髪に 気付いたよ
背のびして 子供の髪に くしを入れ
小さな字 見えない時は 孫に聞く
小さな字 声で答える 老眼鏡
問題を 友に教えて もらう僕
何度目だ 言いたくなるが がまんする
ハンバーグ 似せられるかな 母の味
玉ネギを グーグルかけて 切る娘
祖母の声 胸にし泳いだ 東北大会
カレンダー 亡き母記す 東北大会
思春期 何故こんなにも おかしいの
若い頃 婆ちゃんにも 笑いあり
三年間 応援サポート ありがとう
わかっている ダル、ウザ、キモッは 照れかくし

若一中 一年 杉安真奈
母 杉安景子
若一中 一年 照井あかり
母 照井麻希
母 星いづみ
若一中 一年 星祐輝
若一中 二年 荒川奈々
母 荒川京子
祖母 佐藤博子
若一中 二年 佐藤初音
若一中 二年 中武嶺
若一中 二年 高橋李空
若一中 二年 雪下しずく
母 雪下亜紀
若一中 二年 渡辺葉楠
母 渡辺恵美子
若一中 二年 渡部愛花
祖母 渡部節子
若一中 三年 一ノ瀬多恵
母 一ノ瀬恵子

歳よりも 若く見えると 娘言う
お世辞言い、うまく生き抜く 知恵付けた
夕食後 ノートに走らす 英単語
頑張れよ そつとテレビを オフにする
集大成 華麗に散った 背負い投げ
見ていたよ 綺麗に一本 取られたね
加賀の旅 自然を巡る 家族旅
加賀文化 勇壮活発 子と見上げ
千羽鶴 みんなの祈り 広島へ
鶴千羽 思い連ねて 手から手へ
母といく 二人三脚 受験道
コツコツと 努力する背の 頼もしさ
出かけると 大人料金 中学生
気がつけば 料金だけは 一丁前
手伝うよ つかれた時は おたがいに
わが家では 「お・た・が・い・さ・ま」が 合言葉
もう着ない 母の洋服 そつと着る
行って来ますと 出かける姿 どこかで見た服
また来るね あの日がつなく 人と人
人集い 守り続ける 令和の海
夏休み 体調くずし 母看病
夏休み 遠くに聞こえる 蟬の声

父 岡本茂樹
若一中 三年 岡本望愛
若一中 三年 山口柚花
母 山口ルミ子
若一中 三年 山口紅炎
母 山口瑞穂
若二中 二年 武富義弥
父 武富義周
若二中 三年 安田琉加
母 安田直子
若三中 三年 須田亮
母 須田幸子
若四中 一年 梅本康太郎
母 梅本亜紀子
若四中 一年 菅家春菜
母 菅家香織
若四中 一年 佐藤花音
母 佐藤典子
若四中 一年 玉川徳馬
母 玉川香
若四中 一年 古川陽菜
母 古川奈美

娘との 距離がちぢんだ 夏休み	父	大村 純克	背くらべ 母に勝りし 胸を張る	北会津中二年	長谷川 稜太
ケイタイが こわれて会話 多くなる	若五中 一年	大村 碧空	伸び盛り 目を細めつつ 秋の風	母	長谷川 陽子
母の服 一緒に着れて うれしいな	若五中 一年	栗城 美羽	初夜釣り 父より大きな アジ釣るぞ	北会津中三年	長田 夏歩
同じ服 シェアして思う 娘の成長	母	栗城 真由美	アジきらり はしやぐ父娘と 海の月	母	長田 佐智代
ばあちゃんに かくし事しても すぐバレる	若五中 一年	鈴木 琳勢	志望校 合格めぎそう 受験生	河東学園中三年	佐藤 萌
あたりまえ！ おまえの顔は 電光掲示板	祖母	鈴木 智子	来年の 自分を夢見て ペンを持って	河東学園中三年	荒井 香鈴
盆の夜は ご先祖様と ミーティング	若五中 一年	横山 礼空	墓掃除 御先祖様が 喜ぶぞ	磐梯中 二年	鈴木 重孝
仏間にて 枕並べて 香をかぐ	祖母	松林 千代子	墓掃除 命のつながり 実感し	父	鈴木 孝之
委員長 今日もあいさつ がんばって	若五中 二年	松野 巧聖	「何にする？」 毎年悩む 十七字	磐梯中 三年	大竹 夏穂
ありがとう 僕のあいさつ とどいてる？	若五中 二年	鈴木 大葵	「そっだなあ……」 悩む時間が 絆生む	父	大竹 知明
炎天下 のどを潤す 命の水	若六中 二年	岩澤 昌利	手術後の 母の存在 偉大なり	猪苗代中一年	真島 彩矢
キンキンに 冷えた水筒 母持たせ	母	岩澤 直子	大丈夫 不安かき消し 成長す	母	真島 貴美恵
炎天下 暑さに負けない サッカー部	若六中 二年	小島 来輝	僕の夏 全国のきっぷ つかんだぞ	吾妻中 二年	古俣 寿季
汗だくの 洗濯物が エンドレス	母	小島 真弓	子の姿 白球追いかけ 目に涙	母	古俣 由利子
本将棋 あの手の手で 僕が勝つ	湊中 一年	齋藤 汰斗	いつてきます 角曲がるまで 見送られ	吾妻中 二年	佐藤 爽乃
油断して 孫の一手に 舌をまく	祖父	藤野 義和	ただいまの トーンでわかる 子の調子	母	佐藤 麻里
祖父の手を おいかけ登った 山登り	一箕中 一年	千葉 陽希	チアダンス 頑張る母へ 届けエール	東中 一年	野口 桜菜
息子の背 追いつつ仰ぐ 夏の山	母	千葉 裕希	背中押す 娘の笑顔 疲れ飛ぶ	母	野口 真季
母おふる 手ぬいでつくる プレゼント	一箕中 二年	岩佐 涼加	目標の 県大会へ 走り出す	東中 三年	安部 拓海
床に針 なぞがとけたよ 誕生日	母	岩佐 葉子	限界に 挑戦していく 汗しぶき	母	安部 寿美
初料理 気合い満タン ママの助手	北会津中一年	佐藤 由杏	負けて来い 家族の想い お守りに	東中 三年	皆川 新之介
見守ると 決めてもつい出る 口と手が	母	佐藤 亜希子	ユニフォーム しみ込む汗に 子の成長	母	皆川 悦子

目分量 近づけたかな 母の味	喜一中 二年	関口 遥菜	抜歯した 祖母の顔見て 大丈夫	北塩原一中三年	金子 正樹
キツチンの 娘の背中に 母うつる	母	関口 早苗	骨折で 夜中に孫の 足さする	祖母	金子 京子
成長を 願って植えた ハナミズキ	母	鶴巻 美穂	元気かい？ 電話の向こう 祖母涙	裏磐梯中三年	佐藤 そら
根を張って 強く生きると 決意する	喜一中 二年	鶴巻 日和	元気だよ 電話の向こう 孫笑顔	祖母	榎本 シゲノ
行ってきます 背中に感じる 母の愛	喜二中 一年	五十嵐 康介	満開の 花火と共に 咲く笑顔	西会津中二年	和田 伊織
願い込め 子供の背中 無事いのり	母	五十嵐 悠	火の花に 照らされた顔 大人びて	母	和田 友恵
どれにする 今年も色々 あったよね？	喜三中 二年	鈴木 日菜	孫かわい 抱っこ取り合い にやけ顔	母	西田 福江
思い出を 書くには短い 十七字	喜三中 二年	高畑 佑斗	私まだ 中学なのに おばさんだ	西会津中三年	西田 美妃
母の声 力に変えて プレーする	塩川中 二年	須佐 桜雅	星空に 虫を探して 父が友	坂下中 一年	河原田 大樹
頑張れと エールを送るよ 子に届け	母	須佐 千春	川遊び 鮎を追いかけ 童に <small>わらわ</small>	父	河原田 庄佐
帰り道 母のかおりで かけ足に	山都中 一年	安部 凜	まだねむい 匂いにつられ 目をこする	坂下中 一年	松本 芽依
夕やけや 帰る我が子の 影法師	母	安部 恵美	「朝だよ」と 声かけるより 朝食の匂い	母	松本 真由美
夏の声 セミが元気に 鳴いている	山都中 一年	金子 智哉	夏休み 送り迎えて 忙しい	母	永山 ひろ子
暑き日の 瓶を覗くと 雲の峰	西会津高一年	金子 史弥	大会の 結果で表わす ありがとう	坂下中 二年	永山 楓
「ありがとう」 子との会話に 胸はずむ	母	佐瀬 静香	母想い 内緒で手伝い 考える	湯川中 一年	獨古 まどか
「手伝うよ」 距離が縮まる 台所	山都中 二年	佐瀬 音羽	目論みを 知らぬ顔して ほくそ笑む	母	獨古 弘美
母の背を 卒業までに 追いつくぞ	山都中 二年	橋本 虎太郎	今朝も熱い 洗いざらしの 白いくつ	会津柳津学園中 一年	鈴木 琴水
こっそりと ご飯の量を 多く盛る	母	橋本 幸子	休んだら？ 口に錠して 送る笑顔	祖母	鈴木 サダ子
先輩と 共に鉢上げ 花苗木	高郷中 三年	小林 昌史	なすスープ 嫌でも食べてと お母さん	会津柳津学園中 二年	伊藤 萌恵
庭に植え 開花を待つよ 受験生	母	小林 ゆり子	たっぷり の 愛が詰まった なすなのよ	母	伊藤 理絵
ストローク 合わせるパウは カづく	高郷中 三年	佐藤 有	反抗期 ならんでみたら 笑われた	会津柳津学園中 二年	小林 陽
夏空を 仲間と共に ボート漕ぎ	高郷中 三年	上野 隼平	遂にきた ならんでみても ばれてるよ	母	小林 由香利

母のため ただいまのつき ペランダへ 思いやり 上手になった たたみかた これ誰の 洗濯たたむ 同じ大きさ タグ見てね おそろのTシャツ 名前つき 父ありて あなたの笑顔 ここにあり 今はただ 少し嫌なだけ しばし待て 反抗期 親言うけれど 子はちがう 旅行中 影をひそめる 反抗期 「おかえり」と 言う番今度は 母の方 「ただいま」と 無事帰る娘の ありがたさ 初挑戦 自分で作る 昼ご飯 娘へと 昼食レシビ おき手紙 新盆に 祖父が帰り また会えた 主人戻り また来てねと 孫が泣く 反抗期 父に反発 母にぐち お互いの 言い分聞きつつ にんまりと ニコニコと つみきのお城 倒された 孫せまる 立派なお城が 総崩れ テーブルの コーラがビールに 変わる夏 五年後は いとこ揃って 乾杯だ 暑さより 厚さに参る 夏読書 子の手には 中二で読んだ 祖父の本	高田中 一年 上野 涼葉 母 上野 絵里子 高田中 一年 洪川 杏 祖母 石井 千恵子 母 長嶺 美和子 高田中 一年 長嶺 織音 高田中 一年 水落 陽向 父 水落 裕之 高田中 一年 目黒 小乃花 母 目黒 和枝 高田中 二年 久家 ずずか 母 久家 佳奈子 高田中 三年 高橋 椿 祖母 角田 タカ子 本郷中 一年 押部 泰平 母 押部 夏江 昭和中 三年 菅家 菜々美 母 菅家 真由美 昭和中 三年 鈴木 光希 いとこ 玉野 拓海 会津学鳳中 二年 平山 翔瑛 父 平山 篤司
--	--

初夏の朝 父の手握り 別れ告げ
泣きくずれ 母の背中に 手を添える

母 高橋 志津
会津学鳳中 二年 高橋 咲貴

絆ふれあい賞・絆部門【高等学校】

父と指す 将棋はいつも 夜八時
息子とは あと一年の 将棋日々
花火見て みんなでなごむ 夏の夜
涼風に 花火を囲む 笑顔かな

会津学鳳高 二年 大堀 順正
父 大堀 明洋
喜多方東高 一年 眞部 咲羅
祖父 眞部 久男

絆ふれあい賞・復興部門【幼稚園】

ああたのし かいすいよくだ ああたのし
月日経て 海に入れる こちよき

新鶴こども園年中 イトウ さくらこ
母 伊藤 由佳



絆ふれあい賞・復興部門【小学校】

たのしいな みんなでおどる ぼんおどり
 もりあがる 地域をこえた 盆踊り
 ふくしまに うまれてこれて よかったな
 震災を 知らぬ娘に 語り継ぐ
 すこいでしょ ぼくのふるさと 二つある
 さすがだね プラス思考の 我が息子
 暗闇に 希望を灯す 聖火の炎
 あなたの手 その手で福島 ふっこうへ
 おいしいね じいじつくった なつやさ
 時を経て 安堵の味の 夏野菜
 ふくしまの 港でとれた しんせん魚
 八年の 時をかけて 再生る海
 支え合い 今復興の 花が咲く
 歌声に 心が集い 祈る夜
 ばんだい山 ふくしま見守る 守り神
 さすけねえ と見上げるそこに 会津富士
 はかまいり 八年ぶりの ごあいさつ
 子連れでの 酷道耐えて 初墓参り
 そう馬の海 買った水着で 泳ぐ夏
 瓦れきにも 明日を告げる タへの海



城北小 一年	村田 優衣	福島の お米で作る 元気玉	城南小 三年	藤樹 観奈
祖母	菅野 道子	商品の ラベルで意識 地産地消	母	藤樹 絵美
城北小 一年	吉野 晴那	ふるさとの すがたなくとも 心にある	城南小 三年	坂元 奏太
母	吉野 裕佳	別れこそ 新たな旅立ち ふるさとへ	母	坂元 雅子
城北小 四年	長谷川 裕矢	なみえ町 いつかはきつと にぎやかに	城南小 三年	秋田 伽奈
母	長谷川 尚子	浪江町 にわかになぎやか 夏まつり	母	秋田 貴絵
父	樋口 英和	悲しいな 人がいないと かわりはて	城北小 四年	鈴木 佳菜
母	樋口 音彩	草まみれ 主の帰りを 待つわが家	母	鈴木 京子
行仁小 五年	井上新菜	風評を のりこえ見上げる 赤瓦	城北小 一年	鈴木 京子
母	井上 久美子	復興の 会津を城より 望む春	母	鈴木 菜緒
城西小 五年	小倉 あまね	胸おどる 波立の海 水遊び	城西小 一年	鈴木 京子
母	小倉 里美	波立の 朝日と鳥居 懐かしい	母	鈴木 京子
日新小 六年	國分 伊織	色々な 人のおかげで 町なおる	城西小 五年	善澄 咲輝
母	國分 春菜	立ちなおる 時間はかかれど かならずや	母	善澄 純
一箕小 五年	星 淳ノ介	せみがなく はじめていった そぼのうみ	河東学園小 六年	小林 奈央
母	星 知美	なつかしい うみのかおりと はかまいり	母	小林 幸子
門田小 四年	門馬 有利	揺れの中 孫を守りて はや八年	城西小 五年	小勝 賢瑛
母	門馬 嗣美	背比べ 祖母を追いこす あとちよと	母	小勝 通子
城南小 三年	齋藤 梓	みんなだね 手と手をつないで がんばろう	一箕小 一年	氏家 佳音
母	齋藤 里美	繋いだ手 けっして離さない つまでも	母	氏家 祐子
			母	阿部 佳子
			城南小 三年	阿部 日向
			母	阿部 日向
			城南小 三年	長嶺 夢梨
			母	長嶺 夢花
			会津農林高一年(姉)	長嶺 夢花

絆ふれあい賞・復興部門【中学校】

草刈られ 列車開通 準備かな
夏越えて 線路つながる 只見線
海ながめ カモメの声は するけれど
高い壁 潮の香りを 運ぶのみ
帰らなきや 思い出つまった 福の島
おかえりと 笑顔の扉 開けて待つ
砂浜に みんなの笑顔も 帰省する
防災の 心構えを 語り継ぎ
亡き人へ 思いが届く 風電話
震災に いつもの幸せ 教えられ
夢をのせ いわきの郷に 黒松が
やり直す 気持ちによりそう 地域の輪
大震災 過ぎる年月 深まる輪
時が過ぎ 心の復興 静かなり
がんばるべ みんなの心に 支えられ
なつかしく 訪ねたい場所は ここにある
福島県 復興願って セタに
ボランティア 言葉なくとも 励まされ
いつの日か やってみたいな ボランティア
孫達の 成長うれし 絆かな

若一中一年	八木橋 環
母	八木橋 民枝
若一中二年	旭 智史
母	旭 理賀
若一中三年	小林 由実
母	小林 裕美
若四中一年	大村 智哉
父	大村 邦雄
若四中一年	鈴木 璃音
父	鈴木 康規
若五中一年	齋藤 渚
母	齋藤 里美
若五中三年	小荒井 丈
父	小荒井 勇
一箕中一年	井上 りわ
母	井上 由希絵
一箕中一年	三富 俊輔
母	三富 美智子
北会津中一年	佐藤 尋
祖母	佐藤 清子

夏休み 声響きたる 校庭や
見上げれば そこには大きな 防潮堤
助けられ 今年で八年 大震災
八年の 支えに君が 恩返し
復興の 未来につなが 虹の架け橋
先に見えるは 明るい社会
福島は 望みをつなぐ 発祥地
福島の子供は未来へ 夢つなぐ
この味だ！ 甘み・食感 タコとつぶ
八年前 大好物の 浜の味
故郷ふるさとの 復興願う 青い海
大震災 別れた友と 出会う友
語り継ぐ 3・11 子から孫 さんでんいちいち
食へてよし 来てよし見てよし わが故郷 ふるさと
おいしいよ 米といたら 福島だ
青い海 人の強さを 映し出す
復興の 絆をつなぐ 聖火リレー
復興の 足音響け うつくしま
はいろ作業 未来のために ありがとう
いっぽずつ はいろすすめ ほうしゃNO

吾妻中 三年	菊地 羽音
仁愛高 二年(姉)	菊地 凜音
東中 三年	三瓶 蓮心
母	三瓶 佳代
喜一中 二年	大関 敦士
母	大関 美智子
塩川中 二年	小林 礼央
母	小林 聡美
裏磐梯中 二年	松本 安友武
母	松本 富美子
西会津中 三年	大戸 亮
父	田邊 拓
坂下中 二年	田邊 姫愛
高田中 一年	木村 涼風
母	木村 めぐみ
新鶴中 一年	大堀 聡太
母	大堀 あけみ
新鶴中 一年	佐藤 巧真
父	佐藤 宗弘



絆ふれあい賞・復興部門【高等学校】

ひまわりに 観光客が 行列だ

喜多方東高 一年 佐藤 文香

あの時と かがやき一緒 満開に

母 佐藤 さち子



お寄せいただいた感想から（抜粋）

- 絆を感じ、言葉にする事で、もっと相手を思いやる心が強まりました。
- 五七五を娘と指で数えながら楽しく絆を深めることができました。
- 今年で十二回目になります。毎年、様々なことを考えさせて頂きかけになっておりました。
- うちでは毎年恒例になっており、夏休みが終わりに近づくと、常々七字で考えるようになりました。楽しんで作成しています。
- 小学校からずっと夏の恒例行事です。家族がみんな笑顔の時は？と考える時間をつくってくれています。
- 絆や復興に限定しない七字であれば、幅広く思い付くと思います。
- 毎年、このコンクールにより改めて福島復興を感じることができるので、良い機会になっています。
- 毎年、優秀作品を読んで考えさせられます。
- この事業を通して、福島県全体の復興について、改めて考えるきっかけになりました。
- 福島が完全に復興をとげるまで続けてほしいです。
- 復興部門で数年続けて応募しています。この事業があることで年に一度は、震災と復興を家族で話し合う大事なきっかけになっています。

あとがき

昨年度を1,000組以上も上回るたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。作品の一つ一つから浮かんでくる、応募者の皆様の家族や友だち、地域の方々とのあたたかい交流に感動しつつ、拝読させていただきました。

これからも、たくさんの絆を結ぶこの事業に、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

（総務社会教育課 担当 武藤 盛男）

